

令和 7 年度佐賀県立名護屋城博物館協議会議事録

日 時：令和 7 年 8 月 6 日（水）14：00～15：50

場 所：佐賀県立名護屋城博物館 図書閲覧室

出席者：委員 13 名 中野委員長、福岡修副委員長、楠井委員、中村委員、山根委員、
福岡庄委員、矢筒委員、酒井委員、原田委員、西山委員、
弓山委員、石山委員、前田委員

事務局 8 名 家田館長、富岡統括副館長、武谷副館長、藤田総務課長、
西係長、久野係長、小野係長

文化課 2 名 市丸副課長、岩永係長

会議の冒頭、館長あいさつ、委員及び事務局職員の紹介、議長選出（委員長を議長に選任）
を行い、議事に入った。

議 事

- （１）事業実施状況
統括副館長からパワーポイントを使って説明
- （２）「はじまりの名護屋城。」プロジェクト
文化課からパワーポイントを使って説明
- （３）前回協議会における意見概要と対応状況
総務課長が資料に基づき説明
- （４）質疑応答

〔議 長〕

- ・非常に懇切丁寧な説明をいただきましたが、終了予定時刻まで、あと 10 分しかございません。進行について、もう少し工夫していただくよう、議長としてお願いします。
- ・本来でしたら、皆様のご意見をいただきたいところですが、時間的な余裕もありませんので、まず、（博物館に対して）発言の機会が少ないと思われます、学校教育や社会教育の委員の皆さんから、何かございましたらお願いします。

〔委 員〕

- ・名護屋小学校では、地元の学校ということで、総合的な学習で博物館へ出向いたり、学校で講座があったりと、歴史へと興味も広がり、子ども達の学習や発表を博物館の方にも見ていただく機会があるようです。
- ・令和4年度の協議会から話をしておりました呼子小学校への出前講座の件については、今年、ようやく実現することができました。
- ・呼子には多くの陣跡があり、また、国の重要無形民俗文化財に指定されている呼子大綱引きについても、将兵の士気を高めるために始まった伝統的な祭りということで名護屋城との歴史のつながりがありますが、年々綱を引く子供は減少しております。
- ・私の子供が呼子小学校へ通っていた頃は、5月の一年生の歓迎遠足で名護屋城へ出向っており、大手門の斜面のところで全校児童で写った写真がありますが、色々な事が重なり、現在は、行っておりません。
- ・近くにあるのに、名護屋城のことすら知らない、行ったことがないとか、こんなに近くに県立の博物館があるのに活用しないではもったいない。
- ・また、学芸員から直接話を聞くことで、呼子大綱引きがただの綱引きではなく、歴史を背負って今につながり、綱を引っ張っているということを知れば、子供たちの士気も高まり、名護屋小学校の子供たちのように、名護屋城を含め、この地域の歴史の深さに興味を持てるのではないかと思います。
- ・以前から折に触れて、学校に話をしていましたが、今年4月に学校へ話をしたところ、教頭先生から「日程が決まりましたので是非見に来てください」と声を掛けていただき、当日は楽しみに参加しました。
- ・全児童が体育館に集まり、名護屋城博物館の学芸員からパワーポイントを使って説明があり、「名護屋城へ行ったことがある人」と聞かれると、1/3 ぐらいの子供が手をあげました。やはり想像以上に少なかったと思います。
- ・講座では、「歴史は身近なところとつながりがある」という伝承についての説明、歴史についての話、呼子では端午の節句にあわせて行われていること、呼子の人々にとって「大綱引き」はとっても大切な行事であること、呼子大綱引きと名護屋城の歴史のつながり等、分かりやすく丁寧に説明をしていただきました。
- ・ところどころ質問を入れたり、児童の質問にしっかり答える等、子ども達が興味を持てるような話し方と問いかけがあり、子ども達もよく話を聞いていました。
- ・この講座が実現し、博物館とのつながりや、故郷にこんなに素晴らしいものがあるんだということが、子供達に少しは伝わったのではないかと考えています。快く引き受けてくださった呼子小学校の先生方、名護屋城博物館の方々に、講座の準備、資料作成など、本当にありがとうございました。
- ・この講座が1回限りにならないよう、先生の異動があっても学校側には声をかけていきます。呼子小学校と名護屋城博物館の年間行事に定着すればと思います。

〔議 長〕

- ・ご存知のように、中等教育の歴史教育では、私たちが学習したときのような日本史 B とかではなく、歴史探究とか歴史総合とか、そんな形になっているとすると、格好な場所ではないかと思いますが、高等学校の方からお願いします。

〔委 員〕

- ・名護屋城博物館には、毎週木曜日に日韓交流史についてお世話になっています。
- ・20 年目ということで、最近、韓国文化系列とコースの名前が変わり、韓国語や K pop などを中心に、韓国に興味がある生徒が多く入学してきている。
- ・歴史の話になると分からなかったり、知らなかったりする生徒がいる一方で、上場地区（名護屋小学校や海青中学校の出身）の生徒も多く、名護屋城博物館に行ったことがあるとか、この辺りの歴史について知っている子もかなり多く、そういった子たちと一緒に勉強していくことによって、理解をすごく深めてくれているなという印象をすごく感じている。
- ・ご存知の通り、来年度からは、e スポーツ学科が導入され、系列の再編も進み、韓国文化系列というの、目玉の系列として残っていくので、来年度入学の生徒も増え、韓国について、もっと勉強したい生徒も入ってくると思う。
- ・現在、手探りで授業やカリキュラムを組んでいるところもあり、名護屋城博物館のお力をお借りする等して、期待に添えるよう授業等を進め、博物館と協力して、もっと盛り上げることができたらと思っている。

〔議 長〕

- ・他に学校教育、社会教育の委員の方、学識経験の委員から何かご発言をお願いします。

〔委 員〕

- ・今年の3月、名護屋城大茶会の前に、太閤道の草むしりや、枝切り、案内板の設置など、ボランティア作業に参加し、太閤道を歩いた。
- ・400 年前、全国各地の武将がここを歩いたのでは、というところが残っている。
- ・非常に感動しました。ぜひとも、もっともっと残してもらいたい。
- ・大手口から入ったが、入口よくわからなかった。もっと整備をして、体験してもらいようなことをするのではないかと思います。

〔議 長〕

- ・整備をもうちょっと進めてはどうかということで、前向きに受け止めたい。

〔委 員〕

- ・常設展や企画展といった比較的コアな歴史好きな方向けには博物館が、比較的文化エンターテインメントにコミットしたジャンルを県の文化課が、という組み合わせになっていて、非常にいいのかなと思っています。
- ・文化ツーリズムというのは、レギュラー的に来てもらうのがベースになってくるので、一過性の花火に終わらないよう、何か今後計画されているものがあるのか。
- ・あるいは、地元でも、団体客ではなく個人だったり、個人のインバウンドだったり、その人たちに向けた交通手段や宿泊場所の確保だったり、次につながるような手立てを、どう考えられているのか、素朴な疑問として思ったところ。

（文化課）

- ・これらのイベントが一過性に終わるのではなく、今後、継続的・持続的につながっていくように、これまで以上にいろんな人のところに出向いて、ぜひ連携しませんか、と我々の方から手を差し伸べて連携していくように心がけています。
- ・今ご提案しているのは、このイベントで県はたくさん人を呼んできますので、普段考えているアイデアをぜひ試してもらい、それが先々につながっていくものになるかどうか、という「テストマーケティング」を一緒にしませんか、という形で、これを平時のサービスに繋げていきたいところ。
- ・ツアー造成についても、イベントの時だけ、となるのはもったいないというご意見もいただきましたので、ぜひ平時にも、そういう特別感のあるツアー造成に取り組んでいくのが、おそらく本当の文化ツーリズムだろうと我々も思いますので、今後、検討して行きたいと思いますので、ぜひ、ご助言・アドバイスをいただければと思います。

〔議 長〕

- ・このプロジェクトには期間がありますでしょうか。

（文化課）

- ・今のところ、終期はありません。

〔議 長〕

- ・大学のプロジェクトも同様に、予算の終わりとともに終わるのがプロジェクトだと思うがいかがか。

（文化課）

- ・もちろん、予算の終期はあるが、予算の終わりとともに、このプロジェクトを終わらせてしまうようには考えていない。

〔議 長〕

- ・先程の質問は、いわゆるプロジェクトと言われるような取組のように、期間や予算とともに終わるものではないとすれば、その後はどう繋げていくか、ルーティン化して行く仕掛けなど、何かお持ちなのか、という質問だと思いますがいかがでしょうか。

（文化課）

- ・その辺りも含めて、今後とも、ご助言・アドバイスをいただければと思います。

〔議 長〕

- ・ルーティン化の話として、私が、少し気になったのは、この場が博物館の運営協議会ですので、このプロジェクトが博物館にどう寄与しているのかという議論はあってしかるべきではないかと思います。
- ・大茶会に参加された方たちが、そのまま帰られるのか、それとも博物館で学び直しをされるのか、そういう動線があるのか、という辺りは、この場の議論として不可欠かと思うので、今後、意識していただければと思います。

〔委 員〕

- ・学術交流事業について、晋州（チンジュ）博物館とは 2003 年から交流があるということで、相互に研究員の派遣交流などされていると思いますが、例えば、共通のテーマの研究や、あるいは展覧会などを協同的に企画するという取組は、今まであったでしょうか。
- ・また、2003 年からの節目となる 25 年目や 30 年目に向けて、例えば、これまでの共同研究の成果に基づく展覧会を相互で開催するとか、そんな何か大きな記念事業を是非企画していただいたら楽しいなと思いました。

〔事務局〕

- ・委員のお話にあるような共同企画での展示は、厳密には実施していない。
- ・節目の 5 年目だったのでしょうか、それぞれが同じようなテーマで展示会を開催したことがあったが、共同の調査を一緒にやって、高めて、それを発表・展示したということは、まだできていません。
- ・ただ、確かに非常に大事なことだと思います。そういうことができればな、というふうに考えています。
- ・実は、晋州博物館には移転計画があり、現在の場所から全体を市街地に移そうと。当初計画では 2026 年だったか、少し遅れていると思いますが、ちょうど休館になるのではないかという時期でもあり、なかなかそこまで至っていないところです。

〔議 長〕

- ・晋州博物館について補足しますと、晋州は、文禄の役の時の激戦地でありまして、そこに韓国の国立博物館として建てられたのが晋州博物館です。
- ・韓国でいう壬辰倭乱（日本でいう文禄・慶長の役）に特化した博物館で、当博物館と非常に親和性があり、友好関係にあるということですが、物の貸し借りだけではなく、人的交流や研究交流についても検討してはどうかという貴重なご指摘だったと思います。

〔委 員〕

- ・多岐にわたる色々な活動をなさっていますが、学校との交流事業については、唐津の呼子、名護屋、青翔高校だけでなく、もう少し広げてはどうかと思います。
- ・例えば、合併前の唐津市の子どもたちにも活動を見てもらい、出前授業などもやっていたのであれば、もっと唐津全体で盛り上がるかなと思います。
- ・その家族の皆さんにも伝わり、大人の活動にもつながるかなと思います。

〔委 員〕

- ・28年前、私が地元の首長をしていた当時は、こういったイベントではなく発掘調査についての勉強会などが行われていたと思います。
- ・先ほど委員からも言われましたとおり、当時は、鎮西町だけで実施していて、例えば韓国との交流では、名護屋小学校と萬徳初等小学校との交流があり、それから「まつろ百済武寧王国際ネットワーク協議会」を立ち上げました。
- ・これからは、呼子、鎮西、名護屋だけではなく、近くは唐津市、そして佐賀県内へと範囲を広げていく考え方で働きかけをしてはどうかと思います。

〔委 員〕

- ・報告を聞いて、博物館はいろんな活動されているなとしみじみ思いながらも、これを市民に伝えるのも、また難しいことだなと、観光情報と同様に難しいなと感じました。
- ・先日の大茶会では、錚々たる先生方がお見えになり、有料の席もあっという間に売れて、すごく集客に繋がったなと思います。
- ・その様子が地元の有線テレビ「びーぷる放送」で流れ、先生方も「名護屋城は人と人のキーポイントとなる場所」という話をされ、「なぜ、こういう放送を全国放送で流さないだろうか」と父とも話したりしたところ。
- ・放映権の問題などもあるかと思いますが、せめて県内だけでも放送できないか、名護屋城の価値など、歴史好きの方に情報が届き、その先に、名護屋城博物館に足を運ぼうという動きになってくるかと思います。
- ・今はインターネットの時代とはいいながら、観光協会には、テレビ放送後の問い合わせは意外と多く、やはりテレビを見ている方はいらっしゃる。

- ・そういう意味で、せっかく、これだけ力を入れて名護屋城を盛り上げようとしてくださっていますので、ぜひ、全国の皆さんに届くような情報発信の工夫を何か考えたらよいのではないかと思います。

〔議 長〕

- ・本日は、貴重なご意見・ご提言をいただきまして、誠にありがとうございました。
- ・時間がおしてしまったところが悔やまれるところでございますけれども、これで、本日の協議を終わらせていただきたいと思います。
- ・本日のこの場のご意見・ご提言が、今後の博物館の発展のために活かされることを期待しております。
- ・それでは事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

〔事務局〕

- ・事務局といたしましては、本日、皆様からいただきましたご意見を、今後の館の運営に出来るところから反映させていきたいと思っています。
- ・また、お気づきの点などございましたら、この会議の後でも、後日でも結構ですので、事務局に遠慮なくご連絡をお願いいたします。
- ・それでは、以上を持ちまして、令和7年度名護屋城博物館協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。